

第 10 回マイクロジオデータ研究会

パネルディスカッション議事録

日時：2016 年 10 月 15 日（土）15:50～16:30

場所：立正大学 品川キャンパス（東京都品川区） 会場 S（石橋湛山記念講堂）

（柴崎）以下 3 点についてディスカッションを進めます。

- A. このようなデータがあればいいよね、という話があるか？
- B. データを組織の壁を越えて利活用していくためにどうすればよいか？
- C. 解析する人（研究者など）に対して期待することは？またどのように育成するか？

（柴崎）A. こういうデータがあればいいよね？といわれる機会は？具体例は？

（仙石）そういう機会が多い。住所や緯度・経度のデータはあるので、ジオコーディングをして欲しい、といった依頼。データそのものの活用に関しての依頼が多い。

（加知）災害時など建設機械の場所（災害時以外にも都市計画への活用が見込まれる）

→（柴崎）ジャストインタイムであることが求められるのではないか？

→（加知）その認識で間違いない。

（大島）現在のところ重ねる側のデータの粒度が粗すぎて使いづらい（県単位が一般的。小さくても市区町村）。データがない場合データが作らないといけない、という部分が重要になる。

→（柴崎）統計の元になっている個票ベースのデータだと良いのかもしれない。

他にほしいデータの項目は？

→（大島）学校と先生の数、生徒の数の年毎の推移、駅周辺の所得傾向がわかるデータがあるか知りたいという依頼はくる。公共データのオープン化は課題。

（杉本）地下のデータが防災を考える上で大事。地下構造物のデータを公共データとして持っている自治体も一部ある。それが公表されるといい。津波と被害予測などで、自分で推定データを作って予測をしている研究者もいる。作ればデータはある。データを使ってできることを示せないとデータの公開にこぎつけることは難しい。そのような事案をファシリテートして頂ける人がほしい

B. (柴崎) データを組織の壁を越えて利活用していくためにどうすればよいか？

(平下) 個人情報との兼ね合いが難しい。名前も住所も出せないと情報のリンクができなくなってしまう。ありとあらゆるデータは、これまで 35 年で住宅 1 件 1 件にリンクさせることができた。今後どうするかが重要。

(北村) 今後の課題であることは間違いない。大学との連携等もそうだが、オープンデータ化もそうだが使える形で出していくことが重要。

(大島) データを通じてミクロとマクロを俯瞰できるといいかも。自分事にしていくこと、距離において見せていくものの両方を見せていく

→ (柴崎) GIS 系の研究者は地図を作つて満足してしまう傾向があるからこのような発想は大事。

(質問者：鈴木防災科研) 住宅の宅地のデータに熊本地震で注目。小規模の個々の宅地のデータが少ない。同じような住宅でも壊れ方に差が出ている。こうしたデータも少ない。盛られた土地の上に作られたのか土地が削られて作られたのか？といったデータがあると理想。施工会社レベルだとこの手のデータを入手することが厳しい。

C. (柴崎) 解析する人（研究者など）に対して期待することは？またどのように育成するか？

データだけ渡せばなんでもできるという発想は危険だが、データはたくさんあるという現状はある。データサイエンティストに求めるものは何か。

(平下) この商品を買った人、は個体として存在する。それに付随する属性を見つける。言葉では簡単だがエモーションも含まれるから難しい。実績をもとに分析して類似する人。単純に AI に任せることがいいのかは疑問。贅沢な人というデータはないからそれに関するデータなどを見つけ出せることが重要。

(仙石) データサイエンティストに求められる要素は CTO。何がキーファクターなのか、リサーチデザインが大事。スキルがそれほどなくても R や Python は動かせる。学会などが活動を通じて、データで飯が食えることがカッコイイと思わせることが大事。

(杉本) 現在ツールとして GIS を教えている。こうした教員を増やすことが大事。自主的な取り組みによって学生を動かす。データがたくさんあると逆に選べない。少し選択肢を狭めることでビジネスに乗れれば理想的。

(加知) データそのものを扱うよりも、地方創生などの実際のプロジェクトなどの幹になる部分での経験に付随する形でデータの扱いやスキルをつけていくことが近道ではないか。実体験できる仕組み作りが大事。

→ (柴崎) 「データサイエンティスト」という呼び方を考えたほうがいいかもしれない。データサイエンティスト＝凄いスキルをもっていて、データから「きれい」に状況を切れる、といったイメージが先行しているのでは。

(北村) 「データを扱いませんか」と呼びかけたらあまりいい人が集まらなかつた。「データサイエンティスト」と呼びかけたら理系バリバリの人（サイエンス特化）が来た。サイエンス、エンジニアリング、ビジネス、この 3 つがデータサイエンティストには大事。そしてそれらを全て揃えている人はほとんどいない。特にビジネスの能力を持つ人は少ない。複数人でプロジェクトを組んでデータサイエンティストっぽいことをやるのが今の段階では現実的ではないか。

(大島) サイエンス、エンジニアリング、ビジネスの得意な人でチームを構成するのが現実的。自治体など課題を持っている方と専門性をもって議論していくことが必要。

以上